



ロータリーの未来は
あなたの手の中に

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：増田 盛英
幹事：高木 勝
クラブ委員長：岩崎 道夫

例会日：毎週木曜日PM12:30~
会場：ヒルトン名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：276nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

2009~2010年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーの未来はあなたの手の中に
2009~2010年度
RI会長 ジョン・ケニー

第1445回例会

~ロータリー理解推進月間~
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2010年1月28日(木) 雨 第28回

司会：馬場将嘉会場委員長
斉唱：「日も風も星も」
ゲストスピーカー：地区青少年交換委員長 森 榮さん

会長挨拶

増田盛英会長

1月20日から24日まで、台北延平RCのウイン
ストーン国際奉仕委員長はじめ4名の皆さん、そし
てホームステイをしました6名他の総勢14名が
おみえになりました。ホームステイを受け入れて
頂きました宗宮さん、平野さん、堀さんそしてその
間お付き合いを頂きました高須さん、市岡さん
には、大変お世話になりありがとうございました。心
より感謝申し上げます。ここでお世話頂いた皆さんに感謝の拍手を
したいと思います。(拍手)奥様にもよろしくお伝えください。



さて今日は、日本酒の話の4回目です。

1回目に精米の話。2回目に米洗いの話。3回目に米の蒸しと麴、そ
して仕込みの話をしました。今回は、仕込んだ「もろみ」の中で何が起
きているのか。それは、麴で糖化をさせブドウ糖を造り、出来たブドウ
糖を酵母が食い、アルコールが出来る「並行複醗酵」である。という話
をしました。

そしてよいよ「もろみ」を搾るわけですが、今は殆ど自動圧搾機を
使います。しかし高級酒は自然圧搾をしている蔵元もあります。圧搾
時に「もろみ」の中にある生菌酵母、つまり生きています酵母が、1cc中
に8000万個から1億個以上生きています事が大事です。「もろみ」期間
が進んでいくに連れ酵母が死んでいきますが、死んでいく酵母をいか
に少なくするかが高品質の酒を得る重要なポイントです。例えば搾る
段階で「もろみ」1cc中に酵母が3000万個くらいですと酵母の死滅
率が多く、アミノ酸の多い雑味のある酒になってしまいます。1cc中に
1億個以上生菌酵母がいると、雑味の無い心地よいすっきりとした味
の豊かな日本酒が得られます。ここで原酒の生酒の出来上がりです。
因みに清酒酵母のサイズは約10μです。1μは1000分の1ミリです。
目安としては赤血球が7.8μ、精子が60μ、つまり0.06ミリです。もち
ろん肉眼では見えません。学生時代に、600倍くらいの顕微鏡で覗く
と、酵母が動くのを良く見ることが出来ました。

もろみを搾りますと原酒ができあがりです。そして濾過をします。濾
過をして何日後に、「火入れ」をする酒と生酒とに分けます。「火入
れ」とは殺菌です。殺菌温度は蔵元によって違いますが62℃から
68℃が標準です。「火入れ」の目的は、酵母が生きていますのでその
働きを無くすこと、腐ってしまうことを防ぐことです。この酒を腐らす菌
を「火落ち菌」と言います。火落ちという現象を起こす「火落ち菌」は、コ
ウジカビが生成するメバロン酸(mevalonic acid, MVA化学式

C6O4H12) (通称「火落ち酸」)を主食とすることが今日では解ってい
ます。火落ち菌は乳酸菌の一種で、日本酒に入り込むと濁りを生じ、
酸化させ、また臭みを帯びさせます。6%ぐらいの濃度のアルコールが
最適な生育環境ですが、25%程度でも問題なく成育します。また日本
酒のような弱酸性の環境を好みます。まさに日本酒は火落ち菌にとっ
て理想的な生活環境といえるわけです。しかし、これを飲んだからと
言って、お腹が痛くなるなど体に害のあることはありません。

そして火入れをするもう一つの大きな目的は、「火入れ」すること
により、酒を貯蔵し熟成を図ることです。通常日本酒は、例えば、平成
21年度に製造した普通酒は、殆どの蔵元では平成22年秋ごろまで
に販売してしまいます。しかし高級酒は、1年・2年・3年と長期に渡っ
て熟成させて出荷する蔵元も最近は増えてきております。中には、10
年酒と言う酒もあります。蔵の中で眠っている酒は、低温5℃から
10℃くらいで貯蔵されるのが標準です。先程も申しましたように火入
れをしない酒が生酒の原酒となります。

と言うことで、日本酒の製造の話は、もっと詳しく2時間以上必要
ですが一応これでおしまいです。

挨拶を終わります。ありがとうございました。

幹事報告

高木 勝幹事

- ・本日18時よりローズコートホテルB1階「比翼」において30周年記念
実行委員会決起大会を開催致します。
- ・次週2月2日(火)18時より名古屋マリオットホテル16階「タワーズ
ボールルーム」において4RC合同例会を開催致します。
- ・次週2月4日(木)は振替により休会となります。
- ・次週2月4日(木)12時30分よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」
において第6回30周年記念実行委員会を開催いたします。
- ・1月7日に開催された創立記念例会で使用した「ます」を本日例会
終了後に1人1個ずつお持ち帰りください。

出席報告

梅村昌孝出席副委員長

会員70名 出席33名 (出席計算人数53名)

出席率 57.9%

1月21日は補填により 95.1%

ニコボックス

梅村昌孝ニコボックス副委員長

- ・先週、台北延平RCの皆さんにお越し頂いた際には、長期にわたり、高
須さん・宗宮さん・市岡さん・平野さん・堀さんに大変お世話を頂き、ご
苦勞様でした。本当にありがとうございました。 増田 盛英さん
- ・堀さん、市岡さん、台北延平子弟のホームステイのお世話、大変お疲れ
様でした。高須さん、珍道中お疲れ様でした。 平野 好道さん
- ・先日は家内の誕生祝にお花を頂きました。まだ咲いています。ありがと
うございました。 西本 哲さん

会員増強推薦者バッジ贈呈

新入会員 青柳齊さんを推薦した野崎洋二さんと高木勝さんに地区ガバナーより会員増強推薦者バッジが贈られました。



委員会・同好会報告

プログラム委員会:入山治樹委員長

2月25日ですが、卓話者より卓話に40分ほどいただきたいと連絡がございました。そのため、例会の開始を5分早め終了を5分遅らせ、12時55分から13時35分で行いたいと思います。S.A.Aには了解を得ております。よろしくお願ひ致します。

国際奉仕委員会:堀 慎治委員長

台北延平RCの会長より感謝の言葉をいただきました。皆さんご協力ありがとうございました。また、鳥羽の旅行では関係者の方に非常に迷惑をおかけし、反省しております。この場をお借りして謝罪いたします。申し訳ございませんでした。

30周年記念実行委員会:松波恒彦副委員長

今晚18時より30周年記念実行委員会の決起大会をローズコートホテルにて開催いたします。当初4階で行う予定でしたが、地下1階「比翼」に変更となりました。お間違えのないようよろしくお願い致します。

卓話

地区青少年交換委員長 森 榮さん

「高校生に夢を」～青少年交換プログラムについて～



ロータリーが提供する国際青少年交換プログラムは、数ある国際奉仕活動の中でも最も価値のある奉仕活動のひとつです。1927年にコペンハーゲンRCで最初の交換が行われ、1961年には日本(九州)とオーストラリアとで交換が開始、そして1968年には第260地区(2760地区の前身)と米国とで交流が行われるようになりました。現在では

全世界で毎年約7,000名の高校生が交換留学生として交流しています。

このプログラムは、ロータリアンの子弟が参加できる唯一のロータリープログラムです。地区内の中学、高校から選ばれた学生は、1年間のオリエンテーションを経てそれぞれの地区に出かけ、ロータリアンの家庭でホストされ、現地の高校に通い、1年間の有意義な留学生活を送ります。3月に出発し翌3月頃帰国する春派遣と、8月に出発し翌8月頃帰国する夏派遣があります。ロータリーの指導の下に、高校生にありのままの生活体験を通じて、その国の風俗・習慣等を見聞させることにより、国際理解と国際親善を推進するプログラムであります。往復旅費及び保険・個人衣服等のみ個人で負担していただきますが、滞在費・食費・学校関係費用(授業料等)は受入れRCが負担する仕組みとなっております。また、小遣いとして毎月\$50～70程度が支給されます。ホストファミリーは基本的に3～4カ所となります。

こちらの受入れとしては、1月中旬にオーストラリア、3月中旬に韓国、8月下旬に米国、欧州、南米、アジアからの留学生が予定されております。受入クラブは学校関係費用・クラブの会費・毎月の小遣い

(1万円)等の年間約35～70万円を負担します。また、ホストファミリーには食費等の生活費を負担していただきますが、ホストファミリー補助金として地区委員会より月3万円が支給されます。なお、個人的な費用(電話代、写真代、部活費等)は毎月の小遣いからの本人負担となります。ホストファミリーは1年に3～4カ所が望ましいため、最近では他近隣クラブと協力して受入を検討しています。

現在、2760地区では10名前後の高校生を、アメリカ・カナダ・ドイツ・フランス・フィンランド・ブラジル・台湾・韓国などと交換しています。1968年～2008年の交換実績は派遣が362名、受入が357名、また今年度の実績は派遣が5名、受入が6名となっております。

なお、2010年度の派遣学生に申し込まれる方は2010年7月24日(土)が志願書締切日となりますのでガバナー事務局分室までお申し込み下さい。その後、7月31日(土)に選考試験を実施し、8月9日(月)までに結果をご連絡致します。

高校生に夢を与え、国際親善に寄与できる、安全で安価なこのプログラムを実施してください。ぜひとも子弟の応募をお待ちしています。

ロータリーワールド

青少年交換プログラム最高の異文化体験として賞賛を浴びる

著者であるマヤ・フロスト氏は、ロータリアンでもなく、青少年交換プログラムに参加した経験を持つわけでもありません。しかし、新刊書「The New Global Student」の中で、丸々1章に近いページ数を割いてこのプログラムを紹介するほど、彼女の青少年交換に対する思いは熱いものです。フロスト氏は、「参加しやすい異文化交流の機会の提供にこれほど真剣に取り組んでいる団体も、内容がこれほど充実したプログラムも、世界中どこにもないだろう」と書いています。

留学体験は、新しい言語を学び、異文化への理解を深め、問題解決のスキルを身につけられる機会です。参加者と家族に全面的なサポートを提供するロータリーの交換プログラムでは、最高の留学体験が期待できると、フロスト氏は述べています。



去る7月、米国イリノイ州エバンストンで交換プログラムを修了した台湾、台北出身のウェイ・チュー・チェンさんも、これに同調します。チェンさんは、ライトハウス・エバンストン・ロータリー・クラブともう1つの受け入れクラブを含め、3つのホストファミリー宅でお世話になりました。

台湾の学生に比べて米国のクラスメートのはきはきとした積極性に驚いたと言うチェンさんは、「本からは学べないことが学べた。おかげで、今ではどんな人とも気軽に話ができるようになった」と話し、父親が台北延平ロータリー・クラブの会員であることも明かしてくれました。

米国滞在中にほかの交換学生に勧められてFacebookに登録したチェンさんは、60人以上の友人たちとやりとりしています。また、LinkedInのロータリー青少年交換学友グループを通じて、青少年交換学友との連絡も続いています。フロスト氏は、青少年交換学友の夫とともに何度か交換学生を受け入れた経験があり、3人の娘全員がロータリーの交換プログラムに参加しています。

例会のご案内

■本日の行事 2月2日(火) 4RC合同例会

場 所:名古屋マリオットアソシアホテル
時 間:18:00～20:00
※2月4日(木)は振替のため休会

■次週予定 2月11日(木)

法定休日により休会

■次々週行事 2月18日(木) 西名古屋分区I.M.

場 所:名古屋東急ホテル3階
「パロック・ルネッサンスの間」
時 間:16:00～20:00